

漁況予報 い わ し

第186号

【2014年11～12月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は9月は26トンで、前年(960kg)及び平年^{※1}(11トン)を大きく上回りました。続く10月も35トン(速報値)で、前年(140kg)及び平年^{※1}(11トン)を大きく上回りました。

まき網は、東京湾側では漁獲はありませんでしたが、相模湾側では1ヶ統が9月上旬だけで150トン、10月に20トンの水揚げがありました。

魚体は、2ヶ月とも2014年生まれの被鱗体長^{※2}(以下同)13～15cm(画像参照)の0歳魚が主体でした。

7月以降、0歳魚主体の漁模様が続いています。今後と同様の漁模様になると思われます。

【カタクチイワシ】

主要定置網における9月のカタクチイワシ総漁獲量は22トンで、不漁の前年(1トン)及び平年(2トン)を大きく上回りました。10月の漁獲量(速報値)は700kgで不漁の前年(600kg)及び平年(900kg)並みでした。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は漁獲はありませんでしたが、佐島地区のまき網1ヶ統は9月に漁獲がなく、10月に9トン水揚げしました。魚体は、定置網では6～7cmの未成魚主体でしたが、まき網では9～11cmの小型成魚が主体でした。

このように定置網の少し沖合海域では、やや大きめのサイズの群れが回遊しているようです。

【シラス】

7月から8月にかけて軒並み前年・平年割れとなった相模湾のシラス漁ですが、9月に入ると、上旬こそ100～200kg/統の漁獲水準で好漁傾向でしたが、中旬以降急速に漁獲水準が落ち、下旬には殆ど漁切れとなりました。結局、湾全体での漁獲量(標本船データより推定)は前年及び平年を大きく下回りました(前年比0.4倍、平年比0.4倍)。

つづく10月は上旬に2週連続で台風通過もあり、漁獲量は伸びませんでした。通過後の15日から湾全域で秋シラスの漁期入りとなりました(前年比1.2倍、平年比0.9倍)。

11月に入っても、現在のところ中シラス主体で好漁を維持しています。

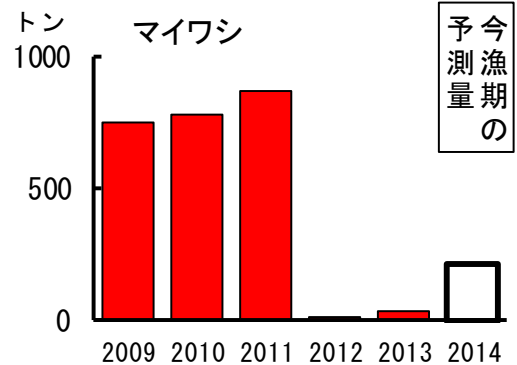
= 予 報 =

過去5年の11・12月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2014年生まれの小中羽マイワシ（13～15cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、過去2年を大きく上回る約212トンと予測されます。これに三陸海域からの南下群が加われば、更なる漁獲が期待できます。

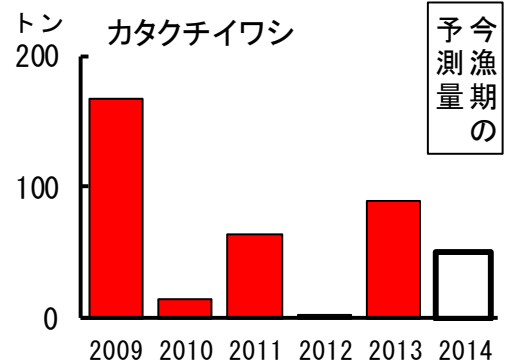


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、2014年生まれの小型成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

この時期の小型成魚は、夏シラスが成長したものと思われ、今漁期の漁獲量は、7、8月のカタクチシラスの漁獲状況から、前年を下回る約50トンと予測されます。

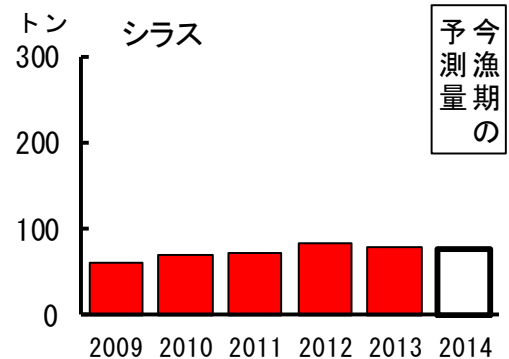


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、カタクチシラス主体に11月はウルメシラスが、12月にはマシラスが僅かに混獲されるでしょう。

今漁期は、グラフからもわかるように100トン未満で横ばい状態がここ数年継続しています。今漁期は約75トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313



2014年10月20日 相模湾の定置網に入網した小中羽マイワシ